

「小さな町で始めるインクルージョンの可能性

～よろず相談所・スマホサロン～

一般社団法人とよのていねい

(大学堂株式会社 代表取締役) 宇都宮 正宗 様

とよのていねいのなりたち

一般社団法人とよのていねいでは、ウェブ・サイトを中心とした情報発信メディアを立ち上げ、豊能町での暮らしの情報を楽しく発信しています。そして集まってきた賛同者の方たちと一緒に「大人の文化祭」をテーマに様々な活動に取り組んでいます。

組織づくりといっても自然と集まったような感じで、地域や文化との関わり合いを楽しみながらつなげていけるところが、我々の良さだと自負しています。最初は妻と2人で立ち上げた、まちを紹介するただのウェブ・サイトでしたが、一般社団法人として全国に先駆けて豊能町のスマートシティを支える事業を行うようになるまでの経緯をお話しします。

今からちょうど7年前に豊能町に引っ越して来た時、まさにまちが高齢化と過疎化という問題を抱えている最中でした。プログラマー兼ホームページ作成事業を20年近く行っていた経験もあり、様々なことを問題解決しようとする癖がついていまして、そこで極々自然に自分たちにできる問題解決策はないかと探った結果が、まちのホームページを作成するということでした。インターネットの成り立ちそのものがボランタリーの塊のようなものだと考えております。例えば自分が困っていることをネット掲示板で質問した時、狭い視点で見ればこれは利己的な行為ですが、ネット全体から見れば人間が困っていることを可視化するというボランタリーな行為です。そういった風土の中で互助的に携わっていると、まちが困っているから何か自分たちにできることがないかを探ることが自然な流れだと感じられました。無理して行動したり、難しいことをしようとしなかった、「自然な流れで起きた行動」ということが、我々にとって後の財産となりました。

暮らしの魅力を発信

暮らしに焦点を当てた狙いとしては、まちのスペックを紹介するようなタウン情報では、早々にネタが尽きることがわかっていたからです。一方、暮らしの情報発信ならまちに関係のない人も見てくれるので、心のどこかで大阪の豊能町の存在を認識してもらえという狙いや、暮らしは日々重ねていくものなので、話題がなくなりにくいというメリットもありました。

ウェブ・サイトの名前は、現在と同じく「とよのていねい」としました。名前というのは他人に使ってもらうためのツールですので、検索のしやすさやサイトの中身がストレートに伝わるのが重要です。豊能町という漢字は町内の方でも変換ミスをよくしてしまうのでひらがなだけを使うことにしました。元々、ブログという言葉はウェブニュースを言

及し合いながらアーカイブしていくネット文化から発生していますので、一次情報を発信するブログか二次以上かで運営方針が大きく違います。個人の技術屋としてネットで活動を行っていた時からブログは一次情報の発信にこだわってきたので、とよのていねいでも一次情報を発信することは自然な流れでした。また、情報へのアプローチの方法を受け取り手に委ねるため、情報を階層化させないことも必要でした。このように、作り手の都合を押し付けないことを常に考えました。スマホの普及以降、従来の商業メディアがネットでも台頭したことが逆に追い風となり、いわゆる商業っぽさの匂いがないことが、若い世代や同世代から好意的に受け止められるようになりました。

もう1つ特徴がありまして、目的に向かって手段を決めようというセオリーのアンチパターンを地で行ったことが、結果的に仲間づくりにつながりました。通常は仕事や目的があって仲間を集めると思うのですが、一緒にやりたいと集まってくれた人たちが活躍できる場をつくっていったのが、一般社団法人とよのていねいの成り立ちでした。このことはまちづくりの事業に関わるようになってからも特徴として生きていまして、完全に事業の都合だけで人に集まってもらうのではなく、集まってくれた人にとって何が一番良いのかを常に考えるようにしています。

スマートシティで担当したこと

まずスマホ教室を実施しました。高齢者からスマホの操作がさっぱりわからないという声をよく聞きますので、町内のパソコン教室の先生と何度も協議してサポート内容をつくりました。わからないということはつくった側が悪いだけなのに、まるで自分が役立たずになって取り残された気持ちになって、誰に聞いたらいいのかもわからない、そんな悩みを抱えるお年寄りに何か手伝えることはないものかと、コンテンツ制作やシステム開発に携わっていた身としてずっと考えておりました。スマホ教室を行って驚いたことが、お年寄りには我々よりも経験が豊富で思慮深いので、手前の簡単なことがわからないだけで、そこをクリアしてしまえば驚くほど高度なことや複雑なことをこなされるということです。受講者の皆さんに初歩的な取っ掛かりを教えただけで、めきめきと複雑なことをこなすようになり、こちらが驚かされる場面に何度も立ち会い、私自身もずっと感じていた胸のつかえが取り除かれた思いでした。その他、担当したこととしては、まちで活躍されている社会福祉法人とのマッチングや、ICタグ「ミマモルメ」をお守り袋に入れるワークショップを行い、まちの有名なお寺で祈祷してもらう企画を実施できたのは、我々らしい面白い企画になったと自負しています。他にも、親会社であります私どもの会社がコンテンツ制作会社なので、スマートシティプロジェクト関連のデザインも担当させていただきました。

また、よろず相談所を定期開催し、スマートシティ化に取り残された気持ちになる方々の不安を解消する場づくりを徹底的に行いました。大卒でスマートシティに関するよろず相談という形を取りながら、スマートシティの軸にスマホを使っているのでスマホの相談にも乗りますよということで、スマホの操作に困っているご年配の相談を受け付けています。様々なバックボーンを持つスタッフを迎え入れ、希望シフト制で週に2回、午前中に開催し、相談にいらした方の相談事を聞いていく実施体制としました。もっと開催してほしいという要望を何度もいただいており、開催日を増やすために現在も様々な調整を続け

ています。皆さん、すぐ仲良く和気あいあいとなりまして、スタッフと相談者が一緒にわいわいと楽しそうにおしゃべりしている光景を見ることが、私がこの事業をやっているうれしいポイントでもあります。窓口を開けている時間があるからこそ、何かあったら行けばいいという安心感から、日常的にスマホに触れるようになったことが大きい効果だと思います。教えてあげられる窓口があることが、窓口の開設時間以上に住民のスマホ導入の障壁を取り除いていると実感します。他にも、スマートシティプロジェクトのお手伝いの場としての開催や、相談員のプライベートな時間を守るために機能しているという側面もあります。

住民からの支持

この事業をやって本当に良かったことは、「スマートシティ？」っていう混乱の声が感謝の声に変わったことです。よろず相談を手伝ってくれている大学生がうれしそうに話してくれたエピソードを紹介します。高齢のご夫婦が相談にいらして、奥さんが「若者がやっている自撮りというのをやってみたいの。」と言うので、インカメラの使い方を教えながら、「自撮りしてみたいんだな」と思っていると、隣にいた旦那さんとパシャッと一緒にツーショットを撮ったのです。旦那さんは急にツーショットを撮られたので、顔が真っ赤になって、それがすごく可愛らしかったらしいのです。その時、「今からご夫婦のツーショット写真が増えますね」と嬉しそうに大学生が話してくれました。とてもいい事業に携われているのだと強く感じたエピソードでした。

よろず相談では、スマホの解決をお望みの方に多くお越しいただいておりますが、それよりもコミュニケーションを求めに来られます。どうにもならない不安を少しでも取り除くことのお役に立っているとしたら、とても意義がある取り組みに参加させていただいているという気持ちでいっぱいです。

■このレターは、2022年12月22日に開催いたしました第25回UIIまちづくりフォーラムの内容を要約したものです。

発行元・問合せ先 公益財団法人都市活力研究所
〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号
グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7F
TEL 06-6359-1322/FAX 06-6359-1329